

<自己評価> 及び <公開保育>

法人・園名		園長名	作成日
社会福祉法人森と風の郷・幼保連携型認定こども園 にじ色の海こども園		戎浦 直幸	令和5年1月10日
教育・保育要領自己評価コーディネーター		(全認研機構認証番号) 氏名	EX-00043 富士 工リカ
評価の記録			
	評価者A	評価者B	評価者C
良い点	<p>○職員が子どもたちに笑顔で優しく接しており、家庭的な雰囲気の中で、職員と子どもたちの信頼関係が築けていると感じた。</p> <p>○子どもたちが自由にのびのびと活動しており、子どもたちの自主性が尊重されていると感じた。</p> <p>○子どもたちが主体的に活動できる環境構成が室内・屋外ともになされていた。</p>	<p>○段階的に進め、8年目を迎えたという異年齢保育が自然に実践されており、少子化や核家族化が進む現代の子どもたちにとって、とてもよい育ちの環境であると感じた。</p> <p>○子育ての支援や高齢者との交流等、コロナ禍でも工夫した取組が実践されていた。</p> <p>○ローテーション表の作成や監査書類の簡素化により、職員の働き方改革に取り組まれている。</p>	<p>○「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づくとともに、「海育」等の地域の特色を十分に活かした教育・保育実践に魅力を感じた。</p> <p>○登降園時のスライドショーや「にじ色スマイル」等の掲示など、保護者に園での様子を伝える工夫がある。</p> <p>○屋外を積極的に活用したり、ピュウフェスタイルを取り入れることで楽しいランチタイムになっていると感じた。</p>
改善点	<p>○園庭が広く、死角になりそうなところもあるので、園児への目配りが大変ではないかと感じた。</p>	<p>○地域に開かれたこども園であると感じるとともに、どこからでも容易に外部の人間が入って来られそうなので、不審者対応が難しいのではないかと感じた。</p>	<p>○南海トラフ地震が発生した際の津波への対応等、海に近いこども園ならではの対応が必要であると感じた。</p>
更に期待する点	<p>○少子高齢化が著しく進む地域において、地域住民に愛され、地域に必要とされるこども園になるためには、どのような取組をすればよいのか、同じような地域のモデル園になることを期待する。</p>	<p>○不審者や自然災害発生時の対応を工夫することで、保護者に安心・安全なこども園であることをアピールできることを期待する。</p>	<p>○「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づきながらも地域の特色を十分に活かした教育・保育実践に取り組むことで、こども園の魅力が発揮されることを期待する。</p>
評価を受けて	<p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づくとともに、地域の特色を活かした教育・保育を工夫して実践しているところを評価者から高く評価していただいた。日頃から職員間で話し合いを重ね、意識しているところを高く評価していただき嬉しく思った。今後も、子どもの遊びに対する興味・関心を高めていけるように、園庭や室内の環境を工夫・改善していきたいと思う。今回の評価では園長、養成校職員、外部有識者のように、それぞれ立場の違った方に評価していただくことができ、様々な視点から貴重なご意見をいただくことができた。いただいた貴重なご意見は職員全体で共有し、今後の教育・保育の質の向上につなげていきたいと思う。日常の子どもたちの様々な生活場面を自由にじっくりと観ていただき、率直な意見を伺うことができ、生活を丁寧に見直していくよい機会となった。</p>		

- ※施設関係者評価 公開保育評価者
- (1) 【評価者A】 他の乳幼児施設職員または地域の幼児教育・保育関係者
(次のいずれか) ① 共に研修に取り組む他園職員 ② 自治体こども関連職員等 ③ 地域の幼児教育・保育に長年携わっている方等
- (2) 【評価者B】 小学校等の他校種教員等による評価
(次のいずれか) ① 小学校との接続を図っている小学校職員 ② 養成校職員等
- (3) 【評価者C】 幼児期の教育・保育に専門的知見を有する外部有識者
(次のいずれか) ① 地域の幼児教育アドバイザー ② 教育・保育要領自己評価コーディネーター（同市町村以外の登録認定者を推奨）
③ 幼児期の教育・保育に専門的知見を有する外部有識者等